

#### 中長期(5年)計画

- ① 当協会調査では国内滑空団体所属会員総数は3,000人、公益財団法人日本学生航空連盟OB数は10,000人。当協会は国内滑空スポーツ統括団体として、全ての愛好家を考慮した施策を行う。また航空スポーツ発展のため、“空”の仲間である航空スポーツ諸団体と連携する。
- ② 滑空スポーツ振興として、“安全”と“楽しさ”を目標とする。  
“安全”について:滑空スポーツ統括団体、滑空クラブ、指導者、パイロット、同乗者など、それぞれの義務と責任を明確化し、安全性向上を図る体制を構築する。  
“楽しさ”について:滑空スポーツ愛好者の“夢”の実現を支援する事業を実施する。
- ③ 滑空スポーツ活動を場周飛行とローカルソアリングから野外飛行に向わせ、競技会振興を図り、日本滑空選手権を再開する。

#### 平成 26 年度基本方針及び重点施策

本年度総会時(6月)に理事改選、12月末にFAI公式立会人および日本滑空記章試験員の任期更新がある。また、4月1日から特定操縦技能審査制度が本格実施される。

滑空スポーツの普及推進のため、ハング・パラグライディングなど関連航空スポーツ団体に参加を呼び掛け、10月11日(土)～13日(祝月)に妻沼滑空場でフライトイベントを実施する。4月に参加団体で実行委員会を設置して企画立案し、実行する。

かつて当協会から毎年滑空スポーツに貢献した人を表彰していた。本年度、表彰制度を新設する。

#### 1. 滑空スポーツ統括普及に関する事業

航空法の適用を受ける滑空機は航空行政の影響を受ける。当協会は滑空界代表として、個人や個々の滑空団体では対応困難な官公庁、航空界との調整などに当る役割がある。そのために、滑空界の状況や意向を適確に掌握し、情報を滑空界に伝達して滑空界のコンセンサスを得、対応するよう努める。

#### 1.1 滑空スポーツ関連の調査

- \* 国内滑空場マップの充実
  - \* 滑空スポーツ基礎データ(滑空場、滑空機、機材、愛好者、活動)についての調査、集計。
- 従来どおり、継続実施する。

#### 1.2 航空関係諸団体との連携、相談答申

- \* 諸官庁、FAI(IGC及びCIMP)、(一財)日本航空協会、航空スポーツ諸団体、(公財)日本学生航空連盟及び学生滑空クラブ、各地滑空団体と連携し、滑空スポーツに対する理解を深める活動に努める。  
航空スポーツフェスタ2014なるイベントを新設する。(1.3参照)
- \* 滑空諸団体とメーリングリストで航空界や当協会からの各種情報を提供し、情報交換を密にする。
- \* FAI(IGC)、諸官公庁との会議への出席、意見交換、提言を通じて、滑空スポーツ普及振興に努める。

#### 1.3 航空イベント等への出展

- \* 展示デモ体験  
10月11-13日の連休に妻沼滑空場で航空スポーツフェスタ2014なるイベントを開催する。当協会から航空スポーツ諸団体に提案し、参加団体を募って実行委員会を設置し、推進・実施する。

#### 1.4 情報発信:各種広報手段について内容充実、編集メンバー強化策の実施

- \* ホームページ運営  
協会ホームページへの各地滑空団体イベントなどの掲載を推進する。  
ホームページ・レイアウトの整理、システムの強化。
- \* 機関誌発刊(7、11、3月、全3回)  
内容充実を図るために、編集委員メンバーの増員に努める。

## 2. 滑空スポーツ愛好者育成に関する事業

グライダー愛好者の操縦技量維持と安全性向上のため、各種講習会や記章制度等を実施する。

### 2.1 指定航空従事者養成施設

\* 養成コースの充実を図る。指定養成各訓練所と共同で、指定養成で自家用操縦士技能証明を取得するメリットをアピールする。

### 2.2 日本滑空記章制度・操縦技量認定

記章制度充実

\* 技能証明実地試験細則改訂、特定操縦技能審査制度本格導入などに対応した制度充実を図る。

### 2.3 講習会・セミナー

\* 滑空スポーツ講習会 2014

TOTOくじ助成金(独立行政法人日本スポーツ振興センター)対象事業として申請(2月現在、審査中)。滑空スポーツに関する各分野(操縦技術、航空力学、気象、航空交通規則、健康等)の専門的知識について講義、解説を行う。東京、大阪、名古屋、仙台、札幌において各1回、各回30~40名規模で実施する。

\* 航空安全講習会

航空局通達に基づく、自家用操縦士の技量維持のための講習会を技量維持連絡会(航空関係5団体)と連携して実施して来たが、本来特定操縦技能審査制度実施までの調査的内容であったため、同制度が本格実施される4月以降状況が変わるので、技量維持連絡会での検討に参加し、決定に従って実施する。

## 3. 滑空スポーツ競技会に関する事業

3.1 競技会主催:本年度の実施計画の予定はなし。

3.2 競技会後援:協会表彰規程に基づいて、国内滑空競技会の後援を行う。

\* 銅章レベルの滑空スポーツ競技会:日本滑空協会賞授与

\* C章レベルの滑空スポーツ競技会:滑空奨励賞授与

\* その他(滑空スポーツ記録会等):滑空奨励努力賞授与

\* 新設表彰制度について準備し、実施する。

3.3 海外選手権への選手派遣(推薦、支援)

\* 第33回FAI世界滑空選手権大会

① 15m、18m、Openクラス競技会 レンシュノ飛行場(ポーランド)で7/21~8/10開催予定。

② Standard、Club、20m複座クラス ライスカヤ(フィンランド)で6/22~7/6開催予定。

### 4.1 会員

\* 滑空スポーツ愛好者の高齢化が進み、飛行活動からの引退と共に協会からの退会が増加している。これに対して若年層の会員登録率が低く、世代交代がスムーズに行われていない。

### 4.2 法人の体制強化、事務局業務の整備

\* 公益社団法人となって1年以上経過し、大過なく運営している。会員数減少に伴う収入減に対応して、事務局稼働日週1日削減などの経費削減を行っている。ただしマンパワー不足は否めない。

\* Windows XP サービス停止、機器老朽化に対応して、PC買換え、Office365導入を行っている。会員管理ソフトウェアのバージョンアップ対応を外注する。

### 4.4 会議

\* 理事会:平成26年度総会議案策定(5月)、平成27年度事業計画案・予算案策定(2月)

全理事から賛成を得られ、監事の異議が無いような案件はメール上で随時処理する。

\* 定時総会:平成25年度事業報告、決算報告承認、理事改選(6月)

以上